



# 上菅田中学校だより

第6号 平成30年10月1日発行

発行責任者 校長 関 恭雄

上菅田中学校 学校教育目標

- ◆学びを深め、実践力を養う
- ◆互いを認め、自分を伸ばす
- ◆豊かな心と健康な体をつくる
- ◆地域の一員、国際社会の一員であることを自覚し、行動する

## ボッチャで交流◎上菅田特別支援学校との交流会 in 上菅田中学校体育館



9月6日、本校体育館で上菅田特別支援学校中学部2年生と上菅田中学校2年生の交流会が開催されました。はじめは両校の生徒とも緊張気味でした



が、「ボッチャ」が始まるとあっという間に打ち解けて、あちらこちらから拍手や大きな歓声があがりました。ボッチャ体験終了後に上中の2年生が披露したYOSAKOIソーランは迫力満点で、特別支援学校の生徒や先生方も感激していました。短い時間でしたが、楽しく中身の濃い充実した交流会となりました。上中の生徒や先生からは「ボッチャっていいね」「ボッチャ、またやりたい」「上中でもボッチャの道具をそろえようよ」という声が聞こえてきました。

上菅田特別支援学校が熱心に取り組んでいる「ボッチャ」は次のような競技です。

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

障がいによりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。（日本ボッチャ協会 HP より）



## 生徒も参加・地区懇談会

9月18日、地域代表の自治会長をはじめ主任児童委員や学区小中学校のPTA会長、PTA校外委員の皆様にご出席いただき地区懇談会が開催されました。今回の地区懇談会には生徒の代表も参加し、「地域が中学生のためにできること・中学生が地域のためにできること」をテーマに活発な意見交換を行いました。参加者がそれぞれの立場から気づきや思い

を言葉にすることを通して、地域と中学生の関係についてなんとなく感じていたことが少しずつ明確になっていく話し合いになりました。

**お知らせ**今年度の卒業証書授与式実施日は平成31年3月11日（月）に決定しました。それに伴い、前日3月10日（日）は、午前▶授業 午後▶式準備となります。〈3月10日の代休は3月4日（月）です〉

# 全国学力・学習状況調査結果報告

平成 30 年 4 月 17 日に全国の中学 3 年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の集計結果が文部科学省より届きましたので報告します。

平均正答率(%)	国語 A (主として知識)	国語 B (主として活用)	数学 A (主として知識)	数学 B (主として活用)	理科
<b>上菅田中</b>	<b>73</b>	<b>61</b>	<b>60</b>	<b>45</b>	<b>62</b>
横浜市(公立)	76	63	67	50	66
神奈川県(公立)	76	62	66	48	66
全国(公立)	76	61	66	47	66

今年度は、平均正答率が国語 B 以外全国を下回る結果になりました。特に国語、数学では A 問題(知識)に課題があることがはっきりしました。

また生徒質問紙の解答状況から以下の事柄が読み取れました。

## \*自尊感情について

▲自分自身に自信がない、認められていないと考えている生徒、将来の目標や夢を持っていない生徒の割合が全国平均より多い。

## \*規範意識について

○学校の規則はきちんと守る。

## \*生活習慣について

・朝食はしっかり食べているが、起床時間と就寝時間が不規則。

## \*学習習慣について

▲約 2 割の生徒が家で、自分で学習計画を立てられない。

○家で、学校の授業の予習復習はきちんと行っている。

・学校の授業時間以外には、平日の 1 日あたりの勉強時間は、1~2 時間が約 40%。

・学校の授業時間以外には、平日の 1 日あたりの読書時間は、1~2 時間が約 11%。

## \*その他

・地域や社会をよくするために何をすべきかよく考えているが、地域行事やボランティア活動への参加率は低い。

▲新聞をあまり読まない。

## \*数学への関心等

○全国平均に比べると、数学の学習は大切だと思っており、どちらとえば分かり、また数学の学習を普段の生活に活用できないかと考え、数学の学習が将来役に立つと考えている。

## \*理科への関心等

▲全国平均に比べると、理科の学習は大切だと思っておらず、またよくわからないと感じている。また、自然体験も少なく、将来理科や科学技術に関する職業につきたいと考える生徒も少ない。

○授業では、実験や観察はきちんと行われている。



\*今回の結果から、基礎的な知識の習得に向けて、各教科指導の改善が必要であるとはっきりしました。今回の結果をさらに分析し、数学は生徒の関心意欲を力に繋げられるよう、理科は関心意欲を高められるよう、指導法の工夫、授業改善を進めていきます。また、自尊感情の向上、学習習慣の定着を課題として、これからの学校教育を進めていき、21 世紀を生き抜く力の育成を目指していきます。